

高岡市総合計画審議会 第6回ひとづくり部会会議要旨

- 1 日 時 令和5年7月12日（水） 18時～19時
- 2 場 所 高岡市役所議会棟 第一委員会室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題 ①アフターコロナ（5類移行後）における現在の状況・課題・施策の展開について
【資料No.1】
②第4次基本計画（アフターコロナ編）策定スケジュールについて【資料No.2】

【主な意見】

《委員》

多様で柔軟な働き方が選択されやすい環境整備に関連して、デイサービス施設を利用するとき等の介護申請にとっても時間が割かれ、結構大変だという声を聞く。デジタル化できないかと思っている。

学童について、保護者が育休取得している期間は上の子を基本的に預かれないということになっているが、産後約半年間はホルモンバランスの乱れ等により、虐待等が起きやすい時期であり、その期間中だけでも上の子を学童で預かっていただくということができれば負担が減るのではないかと。

《事務局》

高岡市は、行政手続のデジタル申請等について、県のシステムに相乗りするような形で県内自治体ではトップクラスの申請可能メニューを用意している。

令和7年度末を目途に、国全体で福祉分野を含めた行政システムの標準化というものを進めているところであるが、詳細がまだ示されていない。市としても、できるだけ皆さんに足を運ばなくても手続きができるよう、そして何回も同じような手続きを強いることがないようにしていきたいと思っており、留意して進めていきたい。

《事務局》

ご自宅に保護者がいる場合での受け入れが難しい部分はあるが、柔軟な対応ができないのかというご意見を受けとめて、検討して参りたい。

《委員》

現在の学校教育では、更年期障害等の年齢を重ねることで生じる問題について教えていない。

体の発達や介護の問題、少子化の問題、更年期障害等を踏まえた、生涯を通じた教育がなされるべきではないか。

《事務局》

国レベルにおいてもいろいろ議論いただいているところであり、かつて男女別に行っていた性教育を共同で行う等、形は変わってきている。学校教育の中で扱うとなると、学習指導要領に縛られる部分があるが、あり方、生き方教育ということで、例えば産婦人科の先生を学校にお招きして、性教育ということを話題にしながら、男女の健全な関わり方や男女の特性を理解するような取り組みを行っ

ている。まだまだ課題はあると認識している。

《委員》

子供たちのランドセルについて、スポーツメーカーさんとタイアップして、軽いランドセルを使用する自治体もあると聞く。体格が小さい子もいるので、重いランドセルはかわいそうだと思う。

《事務局》

ランドセルは、教育委員会で定めるものではなく、社会通念、それぞれの地域で使っているものである。入学説明会でもランドセルの指定はしていない。しかしながら、他市の教育委員会とも議論する機会があるが、「ランドセルを担がせてやりたい。」という各家庭のご意見もあるようだ。国においても重いランドセル対策として、デジタル端末を活用することで、一部の教科書を持ち運ばない等の取組みも行われている。市もこの運用について、PTA、保護者の方たちのご意見を聞きながら各学年の発達段階を勘案し、柔軟に考えていくこととしている。

《委員》

既にある程度取り入れているかもしれないが、インターネットのリテラシー教育を教育現場に取り入れてほしい。近頃、イタズラ動画をインターネットにあげて大変な問題になっている例が多くある。ニュースでは取り上げられるが、結末を知らない人も多い。訴訟問題に発展し、一生涯背負っていかねばいけないケースもある。小学生、中学生のうちに、本人が判断できるように教育を行う必要がある。

《委員》

資料No.1に「IT人材の育成とIT企業との連携」とあるが、「関係機関との連携」を加えていただきたい。技術スキルを高めていくときに子供たちにとってIT企業と連携することは、とても大切なものだと思うが、先程、委員からお話のあったインターネットを介した問題について、法令や罰則の具体例について教員では示すことが難しい。犯罪というくくりの中で絶対やってはいけないということ、外部の専門的な見地からお話いただくことも必要。外部の方からお話を聞くことで、子供たちも記憶にも残る。

《部会長》

インターネットの利用についてのリテラシー教育を進めていく上で、警察や法律の専門家等の関係機関との連携は欠かせないものである。IT企業だけではなく、いろんな関係団体機関との連携という視点も盛り込んでいければと思う。

《委員》

子供たちの教育の中には、学校教育と家庭教育、社会教育の三つがあるが、特に家庭教育が非常に弱くなっているような気がしている。

子供たちのイタズラや犯罪については、家庭教育で教えるべきところだと思う。学校教育では、このような問題はどうしても踏み込めない部分であると思う。家庭教育にもう少ししっかりと取り組ん

でいただきたいという思いを持っている。

《部会長》

家庭での教育力を発揮できるためには、その家庭の生活が安定していること、家庭が支えられている環境づくりということも大事である。家庭、社会全体で子供たち、人材を育てていくことに繋がる必要があるのではないかと思う。

《委員》

高岡駅とおとぎの森公園にストリートピアノがあるが、好評であり順番に並んでピアノを弾く光景も見ることができる。学校で使っていないピアノ等があれば、様々な地域に設置してみても良いと思う。ネガティブな話が多いなか、そのような場があれば、子供たちや学生が集まり、人が集うことにもなると思う。

《事務局》

閉校した学校のピアノを活用して、ストリートピアノを設置させていただいた。学校の備品で活用できるものがあれば、地域や関係部局と調整しながら取り組んでいきたい。

《委員》

高岡独自のものができれば良い。国に合わせるのも大事だと思うが、そのスタンスでは前に進まないのではないか。インターネットのリテラシー教育も行わなければいけないが、犯罪というだけではなく、被害者側の人権侵害になっているからだめという人権問題も教える必要がある。

《委員》

アフターコロナの中でどうあるべきか、ひとの力をどう引き出してやっていくかということがテーマなのかと思う。DXは、いろんな物事を助けてくれる部分はあると思うが、逆にそれに頼り過ぎてしまうといけない部分ももちろんあると思う。チャット GPT 等の AI が発展してくると人間が考えなくなる。

また、最近では、PTA に入らなくても良いだろうという保護者もおり、そういった時代を迎える中において、新しい高岡を担っていく人材を育てるには、一歩踏み出して、みんなが協力していくことが必要であると思う。

《アドバイザー》

今回の資料では ICT の活用ということが中心になっていたかと思う。その認識は皆さん共有されていると思うが、実際学校現場では、教員の多忙化が進んでおり、ICT を使ったからといって全てが解消できるわけではないと思う。様々な主体との連携ということは大変重要であり、ICT 企業以外にも、地域人材や大学生等、様々な主体と連携して ICT の推進を図っていく観点を取り入れていただければと思う。

《アドバイザー》

DX や ICT の占める割合がかなり大きいと思いながら参加していたが、DX、ICT に取り組みながら、どうやって子どもの良さを引き出すか、どうやって子どもの良さを引き出す社会にするか、ということも重要だと思う。

教科書のタブレット化も重要なことであるが、頼りすぎてもいけないと思う。小学校の低学年では鉛筆を握る感触等のアナログな部分も残しつつ、教育していかなければいけない。

高岡の中心市街地にある TASU（高岡まちなかスタートアップ支援施設）の横には高校生が無料で自習できるスペースもある。まちにお金が落ちるわけではないが、そのようなスペースを設置し、子どもたちの教育環境を整えることはとても重要であると思う。

《部会長》

デジタル化だけではなく、デジタル化とともにリアルな世界での出会いや絆、経験、体験等の大切さもきちんと見据えてひとの力を最大限に高めていくような方向性が望まれるのではないかと感じた。